No.	ご意見	農林水産省回答
1	<p>トランス脂肪酸は、主要国の多くで使用が禁止されているなか、日本のみが「もともと摂取量が少ないので規制の必要がない」と称して、全くの規制がない状態です。消費者も何のリスクも感じず、購入・摂取しています。これについては、優先度 B とされていますが、優先度 A として、管理すべきです。併せて、「本来トランス脂肪酸の摂取は避けるべき（禁止に相当する）もの」という情報を周知してください。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>「食品の安全性に関する有害化学物質のサーベイランス・モニタリング中期計画」における優先度は、「農林水産省が優先的にリスク管理を行うべき有害化学物質のリスト」での危害要因の分類、食品中の危害要因の含有実態や食品の摂取量に加え、これまでの実態調査の実施状況、調査目的に合致した分析法の有無、国内外の動向を考慮し、</p> <p>A: 期間内にサーベイランス・モニタリングを実施 B: 期間内に可能な範囲でサーベイランス・モニタリングを実施 の2区分に分類しています。</p> <p>日本人の平均トランス脂肪酸摂取量は、当省が平成 17～19 年に推定した結果、総エネルギー摂取量の 0.44～0.47% 相当であり、これは WHO が、生活習慣病を防ぐために食事からとる栄養素について定めている目標（総エネルギー摂取量の 1% 未満）を満たしています。</p> <p>また、食品事業者が自主的にトランス脂肪酸の低減に取り組んでいる中、市販の食品中のトランス脂肪酸濃度は、当省が平成 26・27 年度に調査した結果、多くの食品で、平成 18・19 年度よりも濃度が低い傾向にあることを確認しました。</p> <p>以上のことから、トランス脂肪酸について、日本人の通常の食生活では、食品を通じた摂取による健康への悪影響が生じる可能性は低い状況ですが、引き続き、食品事業者による自主的な低減対策の効果を検証する必要があると考えています。</p> <p>そのため、トランス脂肪酸については、「食品の安全性に関する有害化学物質のサーベイランス・モニタリング中期計画」において、優先度 B に位置付けることが適切と考えています。</p> <p>また、国民の皆様が健やかな食生活を送ることができるよう、日本人がとりすぎの傾向にある脂質や、塩分に注意し、いろいろな食品をバランスよく食べることが大切であると考えています。トランス脂肪酸は脂質の一種ですので、脂質のとりすぎに注意することは、トランス脂肪酸をとる量を減らすことにもつながります。引き続き、バランスの良い食生活の大切さなどの情報とともに、トランス脂肪酸の性質や健康に与える影響、日本人の通常の食生活における摂取の状況などの情報についてウェブサイト等で皆様に提供してまいります。</p> <p>なお、トランス脂肪酸などの食品中に含まれる化学物質の規制は、食品衛生法に基づき厚生労働省が担当していますので、いただいたご意見を同省の担当者と情報共有します。</p>